

20111105日本危機管理学総研\_議事録

日 時：2011年11月5日（土）14:00－16:50

場 所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

テーマ：「海洋国家論Ⅱ 海洋アジアと多国間安全保障 ～同盟外交と多国間外交～」

発表者：杉本洋平氏

（ジャーナリスト、海洋安全保障研究所 所長、日本危機管理学総研 会員）

参加者：参加者 8人（発表者除く）

（ジャーナリスト、経済評論家、NPO法人理事長、会社員、地方議員、公務員、  
行政書士・司法書士など）

理事長から開会挨拶、戦略研／危機研の趣旨。→資料「戦略研概要」。

発表： ※概要のみ紹介

## I 21世紀現在の時代の潮流と日本の外交戦略

### ①二国間主義から多国間主義への潮流、芽生えつつある地域主義

・外交カードは広がるが、その分、効能はもちろん限界、副作用も広がる。

～欧州で揺れる EU のギリシャ財政問題、そして貿易自由化の波に混迷する TPP～

### ②多様化・複雑化する安全保障～求められる総合安全保障の視点～

・安全保障の舞台は陸海空さらには宇宙、サイバー空間へ

・拡大する安全保障～軍事のみならず、経済・エネルギー・食糧・環境そして人権へ～

・外交の立役者も拡大

～政治家・外交官のみならず有識者・企業・NGO・市民も外交の担い手に～

### ③特に求められる総合戦略としての海洋安全保障政策

・なぜ、いま海洋安全保障なのか?多国間主義の時代に求められる海洋安全保障政策とは

## II 日本に求められる海洋国家としての戦略

### ①海洋安全保障の現状と課題～拡散し、かつ深刻化する海洋安全保障問題～

・地政学における海洋の戦略的意義

- ・日本の有する海洋国家的性格
- ・アジア太平洋の戦略環境は海洋中心
  - ～海洋権益をめぐる対立の中で深刻さ増す非伝統的海洋安全保障問題～
  - ～アジア太平洋地域の地域像は～EUのような共同体か緩やかなネットワークか～
- ②同盟外交と合わせて重要となる多国間外交
  - ・依然重要な意義を持つ日米同盟
    - ～一方で顕著となる同盟体制及び日本の自主防衛の限界～
- ③ソフト・ハード両面で形成されつつある海洋安全保障レジーム
  - ～信頼醸成レジームと禁止レジーム～
    - ・軍事的な相互不信を打開し、協調関係の形成に寄与するソフトな信頼醸成レジーム
    - ・核密輸や海賊を多国間で実力阻止するハードな禁止レジーム
    - ・各レジームの特質と多国間の枠組みをどう活用していくか

### Ⅲ 海洋アジア地域秩序の胎動とその展望

海洋国家 日本として望ましいアジア太平洋地域秩序

各国の思惑、各レジームの特質を踏まえた日本外交

日本が真の海洋国家となる上で重要な課題

以上